

一部は市販もされているパズル道場の教材。知識はなくても、ルールさえわかれば幼稚園児でも楽しめる。



もっとできる子に！ 学習センスを育成する 頭脳トレーニング。

首都圏をはじめ、全国的に人気の頭脳トレーニング教室「パズル道場」。算数だけでなく、他の科目の学習の土台ともなるパズル道場のしくみを考案者の山下善徳先生にお聞きしました。

●●●●●●●●●●●●●●●● 学習のセンスとは？

「頭の良い子はセンスがあるから」という「センス」と、子ども「やる気」という2つの言葉、重要な言葉というのとはわかっていても「なんとなく重要」なこと。この「なんとなく重要」なことを具体的に説明し育成法まで確立したのがパズル道場の理論です。算数のセンスとは、一つは「イ

メージ化能力」。これは聞いたこと、読んだことが頭の中で考えられる能力。算数ができる子は途中の計算式を書かなくて先生に注意される、でもそれは式を書かなくてもできちゃうから算数が苦手な子に教えるのは口頭で教えるより、図を書く方が早くわかります。ということは途中の式や図を書かない子は頭の中でイメージができていないということです。また、イメージ化能力のある子は立体図形が得意。つまり、難易度が高い立体図形の問題ができるということはイメージ化能力(空間把握能力)が高いというバロメーター。式や図で説明したり、書かせたりする従来の指導だけでは、頭の中に浮かぶイメージ化能力が退化していくのです。この「空間を把握する能力」は勉強だけでなく、スポーツ選手や医師、建築士などにも必要。この能力をトレーニングするにはパズルが有効ということも理解できますね。そして算数のセンスの二つめは「仮説思考力」。自分の作戦を立てられるかどうか。仮説と検証を繰り返しながら正解を求め、それができる能力のことです。

●●●●●●●●●●●●●●●●
「科目本来の楽しさ」を知ることが、子どもの「やる気」の向上につながる。

もうひとつ重要な「やる気」。通常やる気は褒めたり、簡単な問題をクリアさせたりして与える、達成感にあると考えられています。それは間違っていないですが、長期的に続かないだけでなく、ハードルが高くなってしまう。難しい問題や解けない問題に取り組んでも、勉強に対するやる気が変わらない子は、「その科目本来の楽しさ」を知っている子なのです。例えば算数の科目が持つ楽しさとは「考えるプロセス」であり、答え



